

## 「バイオイメージング」本格運用

# 生体の細胞変化観察

### 徳島大12台の最先端機器

徳島大学は、マウスなど生きた動物の体内をリアルタイムで観察・研究できる最先端機器を備えた「バイオイメージングステーション」の運用を本格化させた。生体内で起こる細胞の変化を可視化する機器を国内最大規模にそろえたことで、各種疾患のメカニズム解明や薬剤の効果判定、創薬など幅広い分野での研究が期待される。

バイオイメージングが、バイオイメージングは、顕微鏡や磁気共鳴画の最新機器なら、生きた像装置(MRI)などを細胞を使って薬の反応や使った体内の遺伝子も治療の効果、再発の可能性など、時間経過で状況ンパク質の状況を画像と性など、時間経過で状況して解析する先進技術。が変わっていくものも検従来はマウスなどの死んだ細胞で研究していた 徳島大では2010年

4月、大学院のIBS(ヘルスバイオサイエンス)総合研究支援センタにバイオイメージング研究部門を新設。細胞を長生きさせる環境を保つ箱形の顕微鏡や動物用のMRIなどの機器12台を約6億円かけて導入し、約800平方メートルの施設を開設した。

今年6月には、国立遺伝学研究所(静岡県)からバイオイメージングを専門とする堀川一樹氏を特任教授として迎え、7月に部門長に選任。最先端機器を最大限に生かせる体制が整った。堀川部門長は「徳島発

## 創薬・疾患解析に期待

のオリジナルな診断・治療につながる研究を発信開かれる。(大塚康代)

していききたい」と抱負を語っている。

19、20の両日には、徳島大学病院で、バイオイメージング研究部門のキックオフシンポジウムが



バイオイメージングステーションに備えた最先端機器―徳島大学蔵本キャンパス